

令和 8 年 10 月 26 日
釧路開発建設部

市民や観光客に愛され続ける「5代目幣舞橋」 架橋50年記念行事について ～明治から令和、そして未来へ。地域と歴史を繋ぐ幣舞橋～

釧路開発建設部管内の国道 38 号・国道 44 号において、釧路市の釧路川に架橋する「幣舞橋」が、本年 11 月 26 日で架橋 50 年を迎えます。

このたびの架橋 50 年を契機として、幣舞橋の歴史と価値を広く発信し、次世代へと継承していくことを目的に釧路市と連携して、下記のとおり 50 年記念行事を実施しますので、お知らせします。

幣舞橋は 1900 年（明治 33 年）に初めて架橋され、現在の幣舞橋は 1976 年（昭和 51 年）に 5 代目として完成し、釧路川の河口に架かる重要な交通路として、市民生活を支えるとともに、四季折々の美しい景観を誇る観光資源として、多くの人々に親しまれてきました。その優美なデザインと夕景は国内外から高く評価され、釧路のシンボルとして市民や観光客に愛され続けています。

記

1 記念パネルの展示

11月2日～11月13日 釧路市役所防災庁舎 1階多目的スペース
釧路地方合同庁舎 1階ホール

11月7日～11月8日 釧路市生涯学習センター「まなぼつと幣舞」1階市民展示ホール

11月16日～11月29日 釧路フィッシャーメンズワーフMOO 1階
港文館 1階

2 架橋50年特別ライトアップ※

11月23日～11月29日 幣舞橋

※幣舞橋のライトアップは、平成31年度より釧路市において実施しておりますが、架橋50年を記念し、通常（秋冬の配色：赤、オレンジ）とは異なる特別な配色のライトアップを行います。配色も楽しみに是非、現地でご覧ください。

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部

道路計画課 課長 大谷 篤嗣 電話：0154-24-7268（内線 3351）

広報官 鈴木 亮 電話：0154-24-7354（内線 3379）

釧路開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/ks/>



ぬさまいはし
「5代目幣舞橋」 架橋50年記念行事の開催
 ～明治から令和、そして未来へ。地域と歴史を繋ぐ幣舞橋～

初代 <明治33年～明治42年>



2代目 <明治42年～大正4年>



3代目 <大正4年～大正13年>



5代目 <昭和51年～現在(令和8年11月26日:架橋50年)>



4代目 <昭和3年～昭和50年>



架橋50年
 特別ライトアップ
 (イメージ)



記念行事	期間	会場
①記念パネル 展示	11月2日(月) ～11月13日(金)	A 釧路市役所防災庁舎1階 多目的スペース B 釧路地方合同庁舎1階ホール
	11月7日(土) ～11月8日(日)	C 釧路市生涯学習センター 「まなぼつと幣舞」1階市民展示ホール
	11月16日(月) ～11月29日(日)	D 釧路フィッシャー マンズワーフM001階 E 港文館 1階
	11月23日(月) ～11月29日(日)	F 幣舞橋
②架橋50年 特別ライト アップ	11月23日(月) ～11月29日(日)	F 幣舞橋



【パネル展示内容（1～2枚目）】



めざまいはし

幣舞橋、130年を超える歩み

- 幣舞橋の「幣舞」とは、この地域の名称であり、アイヌ語で「ヌサ・オ・マイ」(幣場の・ある・ところ)を語源とする説があります。
- 幣場とは、神を祀るためのイナウ(木幣)を立てて並べ、祭祀などの儀式を行う場所のことです。
- 1889年(明治22年)に初めて「愛北橋」が架設されてから5代目「幣舞橋」まで、実に137年もの歴史が詰まったインフラ整備です。



▲イナウ(木幣)

愛北橋(民営)

1889年(明治22年)～
1898年(明治31年)



<出典> 北海立志図録

- 幣舞橋の前身
- 渡船から民営有料橋へ
- 当時、全道一の規模

[長さ] 216m [幅] 3.6m

初代幣舞橋

1900年(明治33年)～
1909年(明治42年)



- 初代幣舞橋の誕生
- 官設の木橋

[長さ] 203m [幅] 4.2m

2代目幣舞橋

1909年(明治42年)～
1915年(大正4年)



- 木橋の2代目
- 簡易トラス構造によりすっきりとした印象

[長さ] 203m [幅] 4.5m

3代目幣舞橋

1915年(大正4年)～
1924年(大正13年)



- 木橋の3代目
- 旧橋の2倍近い幅員へ

[長さ] 201m [幅] 7.2m

4代目幣舞橋

1928年(昭和3年)～
1975年(昭和50年)



- 初の永久橋
- 道内初の鉄筋コンクリート
- 北海道三大名橋

[長さ] 113m [幅] 18.3m

5代目幣舞橋

1976年(昭和51年)～現在



- 市民参加、機能性と芸術性に配慮した新しい試み
- 芸術と観光の拠点へ進化

[長さ] 124m [幅] 33.0m



めざまいはし

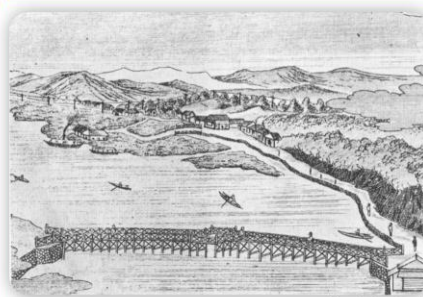
歴代の幣舞橋を振り返る 《はじまり～初代》

2

- 幣舞橋がどのような歴史をたどってきたのか初代から現在の5代目に至る変遷を振り返ります。

はじまり (愛北橋) <1889年(明治22年)～1898年(明治31年)>

幣舞橋の前身(規模は当時の全道一)



<出典> 北海立志図録

- 1889年(明治22年)、釧路川の南北の行き来のために最初に架けられた橋が、「愛北橋」です。
- その頃、釧路川の両岸には市街地もできて、交通が盛んになり、渡し船では不便で危険でした。
- そこで、釧路で酒造りや米などを売る商売をしていた民間会社が、通行料としてお金をとる有料の橋を架けました。
- 1898年(明治31年)、氷による損傷によって、9年で落橋しました。

初代 幣舞橋 <1900年(明治33年)～1909年(明治42年)>

石川啄木も歩いた、初代「幣舞橋」の誕生！



<写真所蔵> 北海道大学附属図書館

- 愛北橋の落橋のあと、橋の改築と国道の路線変更の要望がおり、1900年(明治33年)に、国のお金で長さ203m、幅4.2mの木橋が架けられ、この地域の名をとって『幣舞橋』と名付けられ国道となりました。
- 1908年(明治41年)に石川啄木が釧路新聞の記者として来釧し、この橋を渡り句を詠みました。
- この初代幣舞橋は、9年後の1909年(明治42年)にこわれて落ちてしまいました。



【パネル展示内容（3～4枚目）】



めざまいはし

歴代の幣舞橋を振り返る《2代目～3代目》

3

2代目 幣舞橋 <1909年(明治42年)～1915年(大正4年)>

歴代の中で、最もすっきりとした印象の幣舞橋



- 初代幣舞橋が落橋した1909年(明治42年)に、工事費約9,500円(現在価値:約1,500万円)で木橋の2代目幣舞橋が誕生しました。
- 当時、市街地では、電灯などのインフラ整備が進み、人口は2万人を超え、賑わいを見せていました。
- 「簡易トラス」とよばれる木組みを11連つなげた2代目幣舞橋は、歴代の中でも、最もすっきりとした印象を与える橋と言われています。
- 1913年(大正2年)の寒波、翌年には暖冬異変で流氷が流れこむなど、橋を傷める出来事が続き、6年という短い期間でその役割を終えました。

3代目 幣舞橋 <1915年(大正4年)～1924年(大正13年)>

釧路市として道内有数の都市に成長、活気あふれる時代の幣舞橋



- 2代目幣舞橋が落橋した1915年(大正4年)に工事が始まり、工事費約17,800円(現在価値:約2,600万円)をかけて、その年のうちに3代目幣舞橋が完成しました。
- 1917年(大正6年)、釧路駅が現在地への移転に伴い、市街地の交通量も増大し、橋の役割は、ますます重要性を増しました。
- 1920年(大正9年)、札幌、小樽、函館、旭川、室蘭に続いて6番目に区政が敷かれ、釧路区が誕生、1922年(大正11年)には区制から市制となり、釧路市として道内有数の都市となりました。



めざまいはし

歴代の幣舞橋を振り返る《4代目～5代目》

4

4代目 幣舞橋 <1928年(昭和3年)～1975年(昭和50年)>

道内初! 鉄筋コンクリートを使用した橋



<写真所蔵> 釧路市

- 幣舞橋は交通量の増大に対応するために、架け替えが決まり、1925年(大正14年)から工事がはじまり、1928年(昭和3年)に工事費865,000円(現在価値:約7億円)をかけて待望の永久橋が完成しました。
- 道内で初めて鉄筋コンクリートが使われ、優雅なアーチを描くヨーロッパ風のデザインで、頑丈だけでなく美しさも兼ねそなえました。
- 終戦間近の1945年(昭和20年)の米軍の空襲、1952年(昭和27年)の十勝沖地震の津波にも耐え、半世紀に渡り釧路市の幹線道路として、大きな役割を果たしました。

5代目 幣舞橋 <1976年(昭和51年)～現在>

市民の声を反映したデザイン、交通路から芸術と観光の拠点へと進化



- 幣舞橋周辺の交通量の増加、また、老朽化が目立つことから、新しく架け替える事が決定し、1976年(昭和51年)11月26日に工事費23億円(現在価値:約32億円)をかけて現在の5代目幣舞橋が完成しました。
- 5代目幣舞橋は、市民のみならず一緒にイメージを討議し、親柱やアーチ型など4代目幣舞橋の面影を残しながら、デザイン性やストーリー性を4代目幣舞橋から引き継いでいます。
- 幣舞橋は、単なる交通路から、芸術と観光の拠点へと進化し、釧路の顔として、そして市民の誇りとして、今なお輝き続けています。

【パネル展示内容（5～6枚目）】



5代目幣舞橋の設計について

5

- 架橋後50年という老朽化と慢性的な交通渋滞の解消に向け、市民参加でイメージを討議し、先代の面影を残したいという市民の声を反映し、5代目幣舞橋は誕生しました。

Step1 市民のイメージの集約（市民の意見が集約された3枚の絵）



<出典>釧路市

Step2 設計コンセプト（機能性＋芸術性）

機能性



慢性的な交通渋滞の解消
橋詰ロータリーの車道と歩行者の分離（兩岸橋台下に横断地下道を設置）

芸術性

4代目の景観の取り込み
1. 桁下のアーチ型を鮮明に
2. 現橋の親柱の存続

新たな試み

1. 4基の橋脚小柱に彫刻像設置（市民の声）
2. 高欄にハマネス模様を採用

Step3 幅員と橋長の決定（基本的な事項）

幅員

北大通り（6車線33m）にあわせる



橋長

- ① 漁船、ハシケ及び木材運搬航路として中央航路幅50m確保
- ② 桁下余裕高を現橋以上
- ③ 橋長は先代より6m長い124mに設定
- ④ 支間割は中央54m＋左右34.5mの3径間決定

Step4 施工（構造と意匠）

構造



下部構造（橋脚）
→ 4代目幣舞橋のイメージを再現
→ 水面上は半径5.6mのアーチ形状



上部構造（鋼床版）
→ 桁下の余裕高さを確保しやすい
→ 工期短縮が可能

意匠



彫刻設置（橋脚小柱）
→ 市民の浄財より橋脚小柱上に裸婦立像「道東の四季」を設置
→ 現代日本彫刻界を代表する4氏に依頼
「春」/船越保武・製作 「夏」/佐藤忠良・製作
「秋」/柳原義達・製作 「冬」/本郷 新・製作



橋梁メンテナンスの最新技術

6

- これまでも、そしてこれからも。最新技術を積極的に活用した継続的なメンテナンスにより、安心・安全な橋を次の世代へ繋いでいきます。

Topic1 道路メンテナンス会議

● 会議の目的

→ 関係機関の連携により、課題の状況を継続的に把握・共有し、効果的な老朽化対策の推進を図ることを目的に、平成26年に全都道府県で「道路メンテナンス会議」を設置

● 体制メンバー（北海道）

→ 北海道開発局、北海道、札幌市、東日本高速道路（株）北海道支社

● 役割

1. 維持管理等に関する情報共有
2. 点検、修繕等の状況把握及び対策の推進
3. 点検業務の発注支援（地域一括発注等）
4. 技術的な相談対応 等

● 新技術の導入促進

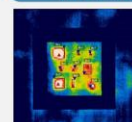
→ 定期点検の効率化・高度化を図るため、新技術を積極的に活用（一例を紹介）

画像計測技術



←点検ロボットが斜材上を移動しながら損傷状況を把握

非破壊検査技術



←ドローンに搭載した赤外線カメラ画像を解析
←表面温度分布の違いからうきを検知

計測・モニタリング技術



←GNSS測位技術を用いて遊間の変位を測定（橋梁の異常を検知）

Topic2 ドローン等による点検・画像計測技術

- 高所など点検が困難な場所では、点検用ドローンを活用しています。
- 全方位衝突回避センサーを有する点検用ドローンは、飛行中、高精度カメラの画像処理により構造物をリアルタイムで3次元空間として把握、障害物との衝突を自動的に回避することが可能です。
- 橋の狭小部（部材間など）でも撮影することができ、塗装剥がれやひび割れ、腐食状況などを可視化することができるため、従来より安全かつ効率よく点検を行うことが可能です。

▼従来点検



（ロープ高所による近接目視）

▼ドローン等の新技術を活用した点検



（小型ドローン）



（高所での点検の様子）



（構造物を撮影→解析）